

令和7年度 学校運営連絡協議会 実施報告

1 組織

(1) 東京都立清瀬特別支援学校 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

副校長、主幹教諭（教務主任兼務）＝事務局長 計2名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（小学部担当）、主幹教諭（中学部、生活指導担当）、主幹教諭（相談支援・進路キャリア教育担当）、計7名

(4) 協議委員の構成（敬称略）

中西 郁	（十文字学園女子大学 教授）	評価委員長兼務
岩澤 寿美子	（清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ 園長）	評価委員兼務
水野 恵美子	（清瀬市立清瀬第三小学校長）	
吉田 有子	（清瀬市立清瀬第七小学校長）	
井上 隆	（清瀬市立清瀬第三中学校長）	
高木 和美	（東京都立清瀬高等学校長）	
菊地 直樹	（東京都立東久留米特別支援学校長）	
柿添 信作	（NPO 法人 きよせラボ 代表）	
山縣 茂幸	（東村山福祉園長）	計9名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日、出席者、内容、その他

第1回 令和7年6月20日（金）内部委員7名、協議委員8名

授業公開、協議委員委嘱、協議委員・評価委員紹介

学校経営計画、本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和7年10月17日（金）内部委員7名、協議委員6名

学校経営計画中間報告、安全教育推進校の取組について、ICT教育の取組について

スクールカウンセラーの活用について

協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和8年2月5日（木）内部委員7名、協議委員6名

教育活動報告、防災教育・安全教育について

学校評価アンケート集計・分析結果報告、評価委員会からの助言・提言

次年度に向けた課題の確認

(2) 評価委員会の開催日、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和7年6月20日（金）評価委員2名、事務局2名

学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和7年10月17日（金）評価委員2名、事務局2名

学校評価アンケート内容の検討

第3回 令和8年2月5日（木）評価委員1名、事務局2名

学校評価アンケートの結果・分析報告と学校への助言・提言内容の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

（1）アンケート調査の対象・規模・回収率（実施時期：12月）

○ 保護者アンケート	対象：224人	回収：171人	回収率：76.3%
○ 児童・生徒アンケート	対象：252人	回収：249人	回収率：98.8%
○ 教職員アンケート	対象：109人	回収：109人	回収率：100%

（2）主な評価項目

- ・昨年度にアンケート項目を変更し、同じ様式で実施した。項目は、「学校運営」「教育活動」「安全対策・安全指導」「キャリア教育・進路指導」「家庭・地域との連携」「その他」「総合評価」の7項目、25の設問で実施した。回答は0～10の11段階で評価を行い、設問によっては、0～4の評価をした場合に、課題や具体的な改善案について入力してもらう形とした。
- ・児童・生徒アンケートについても、昨年度に引き続き、6の設問（○、？、×の選択肢）と自由記述で実施した。児童・生徒の実態に応じて、教員による支援を行った。

4 評価結果の概要

（1）保護者アンケートから

- ・今年度は保護者アンケートの回収率は76.3%であった。今年度もMicrosoftFormsを活用してアンケートを実施し、昨年度と同様の回収率であった。全ての保護者がFormsでの回答だったため、事務局の集計作業の効率化を図ることができた。
- ・学校評価の保護者アンケート全25項目の中で、評価が7～10を肯定的評価とした場合、22項目において、80%以上の肯定的評価を得ることができた。
- ・GIGAスクール端末の活用についての項目は、76%程度の肯定的評価となっており、昨年度よりは数値が上昇しているが、保護者への情報提供が不十分であること、また、児童・生徒の実態に応じたGIGAスクール端末の有効な活用が十分に図られていないことが原因として考えられる。今後は、情報教育部と連携して教職員への情報提供をさらに充実させ、研修の強化を図ることで、端末の効果的な活用につなげていく。また、個別面談や保護者会において丁寧に説明し、保護者への理解を深めていく必要がある。
- ・進学や進路に関する情報提供についての項目は、79%程度の肯定的評価となっており、進路に関する保護者への情報提供が依然として不十分であり、ニーズに十分応えられていないことが原因として考えられる。次年度は、保護者向け進路学習会を現行の1回から2回に増やし、保護者が参加しやすいよう授業参観後に設定する計画を立て、進路だよりのさらなる充実を図り、保護者会や個別面談等でも、丁寧かつ分かりやすい情報提供に努めていく必要がある。

（2）児童・生徒アンケートから

- ・児童・生徒への学校評価アンケートは、①本人による回答、②教員の支援を受けての回答、③教員による代理回答のいずれかの方法で実施した。本人による回答の割合は、小学部が23.2%、中学部が45.9%であり、中学部は小学部の2倍以上となり、学年が上がるにつれて、自分の考えを自ら表現できる生徒が増えていることが分かった。
- ・「先生に伝えたいこと」として設けた自由記述欄には、多くの温かいメッセージが寄せられた。「先生やさしい」「先生たのしい」「先生大好き」「〇〇先生ありがとう」など、教職員への感謝や好意を示す内容が多く、日ごろの関わりが児童・生徒に安心感を与えていることがうかがえた。さらに、「もっと勉強したい」「3学期も頑張ります」「作業で仕事を頑張りました」「体育で長距離走を18周頑張っています」など、自らの学習や活動に前向きに取り組む姿勢を示す記述も見られ、意欲の高まりが感じられた。「カウンセラーの先生と来年も話したいです」との声もあり、専門職員との関わりが児童・生徒に安心感や楽しみを与えていることも確認できた。

(3) 教職員アンケートから

- ・教職員についても、保護者アンケートと同様の内容で学校評価を実施した。その結果、教職員の回答傾向は、保護者の評価と同様の傾向を示した。昨年度との比較では、⑳「本校は働きやすい職場である」、㉑「本校の勤務に満足している」の2項目において、いずれも約15%程度の数値的な上昇が確認された。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した次年度に向けた取り組み

(1) 次年度の研究テーマによる実践研究の推進

- ・研究テーマに基づく実践研究を学校全体で計画的に推進し、日常の授業改善や指導の充実につなげていく。校内研究会等を通じて研究成果を共有し、組織的な実践として定着を図る。

(2) GIGA スクール端末の効果的な活用の推進

- ・GIGA スクール端末の活用については、児童・生徒一人一人の実態に応じた効果的な活用を一層進める。あわせて、具体的な活用事例の共有や、保護者に向けた情報発信を充実させ、理解と連携の促進を図る。

(3) 将来や進路に向けた情報提供の充実

- ・将来や進路に関する情報について、保護者が早期から見通しをもてるよう、計画的かつ継続的な情報提供を行う。授業参観後の進路学習会の充実や実施回数の増加、「進路だより」の内容の具体化・充実を通じて、分かりやすい情報提供を進めていく。

(4) 働き方改革に結びつく取組の推進

- ・次年度は、教育の質の向上につながる働き方改革を意識し、業務改善を進めていく。書類作成力の向上、各種書類フォーマットの見直しや共有システムの整備、教材ライブラリーの活用を通じ、教職員がやりがいと楽しさをもって教育活動に取り組める環境づくりを進める。

6 協議委員のアンケート結果

昨年度と同様の項目で実施した。今年度から Microsoft Forms での回答とし、9名中5名の委員から回答を得られた。学校運営について、適切に改善が図られている、という意見が多く、肯定的な評価が大半を占めていた。自由意見でいただいた意見については、次年度の教育活動の改善に向けて、参考にしていく。

7 職員連絡会及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 令和8年2月20日（金）に時間を設定して評価委員長から、全職員に向けて提言をいただいた。

【成果】 学校運営連絡協議会委員長より、今年度の評価と次年度に向けた課題をいただき、学校の課題を具体的に伝えていただくことで、教職員の意識を高めることができた。